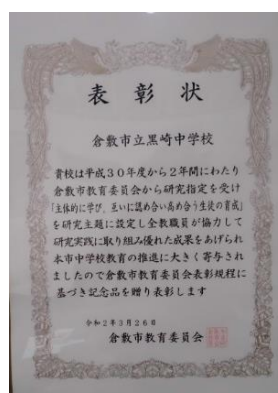


学力向上の取り組み

令和元年度から令和2年度へ

黒崎中学校は平成30年度・31年度（令和元年度）倉敷市教育委員会の指定を受けて「主体的に学び、互いに認め合い高め合う生徒の育成～対話的な活動を取り入れた指導の工夫～」という研究主題を設定し、学力向上の研究に取り組みました。そして、令和元年11月19日には、たくさんの方々のご参加をいただき、無事研究発表会を開催することができました。



「学力向上」の取り組みに対して、表彰状と盾をいただきました。

研究会（研究指定）は終わりましたが、私たち教員が生徒の学力向上を目指す取り組みに終わりはありません。生徒の現状を的確に把握し、実態に応じた学習指導を考えています。生徒に「分かる楽しさ」を体得させるのが一番です。そこから「もっと分かりたい」「もっと学びたい」という生徒の意欲のレベルアップを目指したいと考えています。

生徒の実態

- ・落ち着いた学習，生活態度である。
- ・授業は、静かに受ける。
- ・課題の提出状況は良い。
- ・グループ学習を臆することなく参加できる。
- ・わからないことを解決しようとする姿勢が低い。
- ・スマホ等メディアに費やす時間がかかり多い。
- ・家庭学習にかける時間が少ない。

令和2年度の研究主題設定

昨年度の研究で、対話的な学習は生徒にとって違和感なく取り組んでいる。そこで、今年度は、対話的な学習を単元・授業の中でどのように取り入れていけば、生徒の理解が深まり、学びに主体的に取り組めるのかを検証していきたいと考えた。

令和2年度黒崎中学校研究主題

主体的に学びに向かう生徒の育成

～対話的な活動を効果的に取り入れた指導の工夫～

取り組み

○本時の授業で、生徒の理解できたこと、できなかったことの明確化

今まで通りに「ふり返り」を書かすのもありだが、対話的な活動を入れて、生徒同士で、授業での分からなかったことを交流し合う。そして生徒同士で、解決できなければ教師に質問をする。←新型コロナウイルスの感染症対策のため残念だが、実施できていない。

○帰りの会・朝の会を有効活用した、生徒のPDCA力の育成

帰りの会で今日の「ToDo リスト」を作成、翌日の朝の会で、昨日の「ToDo リスト」をチェックし、時間の使い方の問題点を探す。(家庭学習の時間が充実し、メディア等の時間が抑えられるのではないかと・・・)

○総合的な学習の時間を使って、学年対抗の学力テストを実施

- ・5教科の基本的な問題・用語等テストを繰り返し行い、基礎学力の定着を図る。

- ・学年対抗にすることで競争心を持たせ、クラス全体が協力して学びに向かう雰囲気を作り上げる。

○自主学習プリントを作成し、家庭学習時間の確保

- ・毎日、自主学習用プリントに取り組む事で、家庭学習の習慣化を図る。(「めざせ！プリント100枚の山！」プロジェクト)

○放課後学習の計画的な運営と参加の促進

- ・毎週水曜日は、教師と生徒が全員参加で放課後学習の実施。英語の基本的な問題に取り組み、基礎学力の定着を目指す。
- ・毎週火・木曜日は希望者による放課後学習を実施。教師に対する積極的な質問を促し、学びに向かう気持ちを養う。

★授業改革推進員（学力向上担当）と協議しながらの取り組みを「**パワーアップ通信**」として発行し、教職員・生徒・保護者に発信していく。

★取り組みのPDCAサイクルを確立し、小規模校の強みである迅速な対応を実践する。
(P4・P5参照)

今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、臨時休業や不規則な時間割であったため、放課後学習のスタートが当初の予定より、大幅に遅れてしまい、6月スタートとなりました。

Let's Challenge! 学力向上計画 ～めざせ!プリント100枚の山!～ について

○生徒の提出状況(5月)

	1日	7日	12日	15日	19日	21日	22日	25日	26日	計	平均
1年	0	1	0	0	3	1	3	1	1	10	1.11
2年	7	10	7	3	3	6	3	5	2	46	5.11
3年	3	2	1	2	8	10	7	17	10	60	6.67

○現状

- ・開始直後は、臨時休業中だったため、多くの生徒がプリントを持って帰った。
- ・休業中の課題やスタートプリントがあったため、取り組む生徒が少ない。
- ・漢字ノート、教科の課題などがあるため、なかなか自主学習ノートやプリントに手が回らない。
- ・計画的な時間の使い方ができていない。
- ・提出する生徒に偏りがある。やり始めると軌道に乗る生徒が多い。
- ・3年生の増加は、自主学習ノートが出にくい生徒に、プリントに取り組むように勧めたためである。

○改善策

- ・自主学習は、ノートでも、プリントを自主的に選んでもよい。
- ・苦手教科克服や復習のためにプリントが効果的であることを伝え、利用を促す。
- ・授業で使用したプリントを棚に入れ、利用を促す。
- ・利用状況を知らせたり、利用を勧めたりする掲示物を作成し、意識付けをする。
- ・学年対抗、色別班対抗など、いろいろな形で競わせることで意欲を高める。
- ・自主学習の表彰は、ノートの部(内容)とプリントの部(枚数)で行う。
- ・表彰を行うとともに、利用状況の多かった人、学年、班にはご褒美を考える。

○先生方をお願い

- ・授業や課題で使ったプリントを職員室前の棚に入れてください。
- ・授業中にプリントの利用を呼び掛けてください。
- ・学習した内容の復習に、たしかめプリントを使ってください。

原稿は会議室の裁断機横の棚にあります。(基本・たしかめ・チャレンジのバージョンあり)

火・木曜日 希望者 被服室

2 コース

Aコース・・・終わっていない課題をする・自分がする課題を持っていく

Bコース・・・自分がやりたい学習をする・たしかめプリントを持っていく

水曜日 全員 各教室

英語のプリントに取り組みます

- ①3つのレベルのプリントを準備します。
- ②全員レベル1のプリントをします。
- ③できたら先生のところへ持っていき、採点してもらいます。
- ④きちんと理解できていた生徒には、次のレベルのプリントを渡してさせていただきます。
- ⑤理解できていなかった生徒には、教えてください。

3つのレベルがクリアできた生徒は、自分がやりたい学習をしてもよい。

***漢字ノート、漢字の学習(漢字のワーク)はしない。**

***家で自分でできることはしない。**

***質問したいもの、わからないものをやって、先生に質問するように声を掛けてください。**